

# みやぎの 林業だより



みやぎ森林・林業未来創造カレッジ  
「スマート林業研修(森林調査講座)」



育林ビジネス講座



森林経営管理技術者養成講座



広葉樹ビジネス講座



スタートアップ研修

## 特集 みやぎ森林・林業未来創造カレッジだより～研修が本格的にスタート～

令和4年4月、みやぎ森林・林業未来創造カレッジが本格開校しました！

そこで、今年度の林業だよりでは、カレッジの様々な研修の様子を3回にわたり、特集します。

第1回目となる本号では、5月に開催された入講式の様子をお伝えるほか、4月から順次開催されている研修のうち、「スタートアップ研修」「事業管理者基礎研修」及び「森林経営管理技術者養成コース」の研修内容等について掲載しています。



たけのこ出荷・出発式(丸森町)



令和4年度未改定予定の  
「みやぎ森と緑の県民条例基本計画」

令和4年8月23日  
発行

227号

特集	みやぎ森林・林業未来創造カレッジだより	1～2
話題	新コーナー	
	◎あつまれ！みやぎの森林人！	3
	各種取組	
	◎みやぎ森と緑の県民条例基本計画 ～新みやぎ森林・林業の将来ビジョン～の中間見直しについて	3
	◎宮城県における山地災害と治山対策の取組	4
	◎森林整備の省力化・低コスト化による再生林の推進！	5
	◎非住宅木造建築フェア2022に出展	5
	◎加美町有林の広葉樹材で家具セットを制作	6
	◎栗原の木を使った木工品の商品化と販売支援	6
	◎特用林産功労者表彰の受賞について	7
	◎丸森町全域でのたけのこ出荷再開について	7
	◎非破壊式検査装置を活用した出荷制限解除に向けた取組	8
	◎まつたけの出荷制限解除に向けた取組	8
	◎みやぎ海岸防災林・森林づくりイベント	9
	◎市民参加の新たな森林づくり・春	9
	◎森林林業教育 in 仙台圏	10
	◎生物多様性で遊ぼう、学ぼう！	10
	◎令和四年度林業試験研究の概要	11
市況	◎木材市況の動向・特産市況の動向	12

※みやぎの林業だよりバックナンバーはこちら↓

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/ringyo-sk/ringyo-dayori.html>



# 特集 みやぎ森林・林業未来創造カレッジだより

## 研修が本格的にスタート

令和四年四月、みやぎ森林・林業未来創造機構が運営母体となる「みやぎ森林・林業未来創造カレッジ」が本格開講しました。今年度は、本号からシリーズで研修の状況をお伝えします。

なお、今年度の研修計画は前号でお知らせしましたが、詳細はカレッジのホームページ(miyagi-morimirai.jp)で御覧いただけます。

### 一 令和四年度入講式開催

カレッジでは、機構の会員の参画と協力の下、県、宮城県林業労働力確保支援センター、林業・木材製造業労働災害防止協会宮城県支部の研修機関が連携し、若者から技術・技能の向上を目指す就業者までのニーズに応える研修プログラムを提供します。

カレッジの内容を広め、また、研修生の交流促進と職務・研修への意欲向上に向けて、五月十九日に研修生と所属事業体が一堂に会し、入講式を開催しました。当日は七コース・十五の研修の受講生五一



名、所属事業体代表十六名が出席しました。

式辞と研修生に贈られた知事メッセージ、記念講演の要旨を紹介いたします。

### 佐藤正友機構 共同代表式辞

▽関係者が力を合わせ、若い世代が魅力に感じ、やりがいを持ち安心して就業できる林業の実現に向け、令和二年十二月機構が活動を開始、研修事業部会を中心にカレッジのあり方を検討し研修の体系を構築しました。

▽研修生は険しい道を登らなければならぬときもありますが、カレッジを今後の課題解決や事業体の経営向上、仲間づくりに役立てていただければ幸いです。

### 村井嘉浩知事メッセージ

▽研修生の皆様、入構おめでとうございます。仲間と共に林業技術総合センターで林業に関する様々な知識や技術を学び、森林・林業・木材産業の明るい未来を切り拓く技術者として成長されることを期待しています。

▽林業は持続可能な社会に貢献するやりがいのある仕事です。様々なことに前向きにチャレンジし、夢を叶えてください。

### 入講式記念講演

速水林業代表(三重県)の速水亨様から、「豊かな森林経営を未来に引き継ぐ」と題し、講演と研修生との意見交換を行っていただきました。

### 示された七つのポイント

① **子供達の質問に答えられる林業者**  
 になろう。中高生が現場見学に訪れた際の質問の一例。「これからの時代の森の使い方は?」「日本の木を活用する価値は?」「木を使えば持続可能な社会に向かうのか?」「国産材は環境や人権に配慮されているのか?」「どうSDGsに取り組んでいるのか?」など、いずれも有権者となる子どもたちが、こうした疑問を持って森林に向かっていくということを理解しておくことが大切。



速水氏と研修生の意見交換  
 「秒単位の植付け目標の提示に従業員はどうか?」→「従業員と目的を議論し進めている」

② **東北の林業の強さ**。圧倒的に高い成長量(雪解け水の効果等)、台風が少ない、複数の合板工場が立地、大規模製材工場進出など。優位性を作っていくには広域連携、作業路からの脱皮(架線集材習得)、育林技術の進化などが必要。

③ **環境配慮の林業**。森林は環境要素であり、林業は人間活動の中で最も環境への配慮が必要。速水林業では地表植生維持、林冠開放度二〇%以上、溪流を保護する樹木帯の育成などを実践。

④ **連携から生まれる合理化**。全ての作業が森林の未来に関わる。それぞれの立場で森林を素晴らしい姿にするために連携すること。「伐出だけ」「育林だけ」と分かれるのではなく、前後の作業との関連をシステムとして考え、林業の作業を合理化する。



スタートアップ研修

林業技術総合センター研修棟で木材の性質等を学ぶ研修生

大苗を植えて過酷な下刈りを省力化するなど育林技術を進化させることも重要。

⑤知恵と努力で丸太を高く売る。養殖用筏の利用開発など、木材の性質を知り、隠れた需要・新しい需要を山側でも探す。

⑥知見を備えた技術者を育てる。間伐、機械化、道を付ける、林業には技術と知識が必要。特に森林の管理計画には先進的な技術と生態的な洞察力が必要。

⑦面白さを実感できる豊かな森林経営。林業は自然との会話が原則で、美しい森林、皆が楽しめる森林を育てることで利益が出る、そんな産業であるべき。

## 二 カレッジ研修の実施状況

今回は、新企画となる三つの研修

を紹介します。

### 森林テクノワーカーコース「スタートアップ研修」

- ・実施 四月十八日（二二日）
- ・受講生 十二名（八事業体）

就業前に基礎教育を受けていない新規就業者を対象に「林業一般」（造林から収穫までの施業、木材の生産・利用、本県の現状と政策）、刈払機及びチェーンソーの安全教育（林業・木材製造業労働災害防止協会宮城県支部実施）を行いました。研修には宮城県林業労働力確保支援センターの「緑の雇用」一年目研修生六名も参加し、研修実施機関との連携による研修企画となりました。

### 森林マネジメントコース「事業管理者基礎研修」

- ・実施 五月十三日
- ・受講生 三名（三事業体）

事業体の総務担当初任者を対象にした実務的な研修で、今回は現場から事業管理部門に配置換えになった方や組織づくりに取り組む方とする方が参加しました。機構の会員である宮城中央森林組合の木

6. 林業事業体における総務の役割とは・・・総務担当者の理想の姿

理想の姿です！こうなりたという理想です。

<p>1. 事業体の健全経営を支える！</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・法令を遵守し、健全な組織・財務状況を継続する。一定規模に届いた事業運営、経理処理ができていかに常に確認する。</li> <li>・経営者が財務状況を把握し、適切な経営判断ができるよう財務資料をまとめ報告する。短期・長期の目標を設定し経営管理と検証を行う。</li> </ul>	<p>2. 安心して働くことができる就業環境を整える！</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・常に働く人の声を受け止め、働きやすい就業環境を整えるため、課題を検討する。</li> <li>・コンプライアンス上の課題が無いかを把握し、相談の受け皿になる。</li> <li>・働く人の能力が正しく評価され、安心して働くことができる給与体系を検討する。</li> </ul>
<p>3. 事業体内の課題を顕在化する！</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経営者・業務担当者・総務担当者・現場技術者が連携できるような、情報の共有と調整を行う。</li> <li>・事業運営する上での課題を早急化し、役割分担と取り組み内容を明確にし、実行・検証し・課題の改善を図る。</li> </ul>	<p>4. 新しい情報を収集し関係先との課題を顕在化する！</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会等へ参加し林業情勢の把握と正しい認識を得る。アンテナを高くし情報を得る。</li> <li>・関係先と日常的に情報を共有し、連携できるようコミュニケーションを図る。</li> </ul>
<p>5. 人材の確保と育成に取り組む！</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就業相談への対応やインターンシップを行い、業務内容や就業状況の理解を深め、人材の確保と定着を図る。</li> <li>・指導者の育成をすすめるとともに、現場技術者の育成がスムーズに進むような調整を図る。</li> </ul>	<p>6. 森林・林業のPR活動を行う！</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広報誌やホームページを活用し、森林・林業の大切さと林業の楽しさ・魅力を伝えていく。</li> <li>・小中学生への森林学習体験を積極的にを行い理解を深めてもらう。</li> <li>・森林所長会（組合員）への有効な情報発信を行う。</li> </ul>

事業管理者基礎研修 木村講師資料(総務担当の理想像)

村明子総務課長を講師に迎え、総務の実務事例について講義をいただいたほか、全国的な林業事業体の状況や課題への取組などの情報を提供し、「働き方改革」をテーマにグループワークを行いました。

### 森林経営管理技術者養成コース

- ・実施 五月二十日～二月二八日（前期三七日、後期三五日）
- ・受講生 十二名（十一事業体）

森林を経営・管理する技術者を目指す若手を対象にした長期研修であり、全日程を一年で履修する方四名、二年で履修する方八名が

参加しました。自らが経営又は受託する森林の経済的価値と公益的機能を高めることを目標に、森林経営管理の基礎、森林づくりの目標と施業、森林の利用、労働安全衛生、関連する支援制度、コミュニケーションなどを会員の協力を得ながら研修します。六月には(有)鎌田林業土木の鎌田 渉社長と津山町森林組合の佐々木寿光 森林整備課長に造林・保育の実践方法や現地の境界確認方法などを指導いただきました。



### 終わりに

機構では、カレッジ研修と並行しながら、「就業環境向上を進める四つのプロジェクト」に取り組んでいます。

また、十月には森林・林業関係者・一般の方・学生の交流の場となる「オープンカレッジ」を開催する予定です。

皆様の機構の取組への参画、参加をお願いいたします。

(林業技術総合センター)

新コーナー!

あつまれ!みやぎの  
森林人!



白石蔵王森林組合  
あおき いさお  
青木 功さん

今回ご紹介する方は、白石蔵王森林組合の作業班員として活躍されている青木功さんです。

一 現在の業務

植林から下刈、間伐などの森林整備作業に従事しています。二年前、脳梗塞を発症したことにより三ヶ月間休養し、現場へ復帰後は、作業班長を退き班員として勤務しています。

二 森林組合で働くきっかけ

東京都出身。大学卒業後に神奈川県で半導体を設計する仕事をしていましたが、昔から木に触れる機会が多く、また、キャンプ好きだったことから、山の仕事に興味があり、結婚を機に奥さんの親族がいる川崎町に移住し、森林組合で働き始めました。

三 業務で心がけていること

怪我をしないこと。現場では周囲の安全確認を徹底し、

自分のペースを崩さないこと。

四 仕事をしていて嬉しいこと

作業が終わった後、きれいになった現場を見たとき。

五 仕事をしていて大変なこと

夏の暑さと、冬の寒さ。

六 プライベート(趣味など)

家具職人の家に育ったこともあり、趣味は木工。自宅敷地内に建てた自作の小屋で、プライベートのほとんど時間を過ごし、木工品を製作しているとのこと。現場から出た不用な端材も利用し



青木さんが製作した木工品

ており、根っから山の人のようです。

七 今後の抱負

動けるうちは、林業の仕事が続けていきたい。

八 林業・木材産業への期待

子供の時から多くの人に、木材にもっと興味を持ってもらいたい。そうすれば、林業が活性化できるのではないかと考えています。

(大河原地方振興事務所)

「みやぎ森と緑の県民条例基本計画」  
「新みやぎ森林・林業の将来ビジョン」の中間見直しについて

「みやぎ森と緑の県民条例基本計画」は、東日本大震災や森林に期待する社会的要請の拡大などの情勢の変化に的確に対応し、本県の森林、林業・木材産業の振興に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図る目的で、平成三十年三月に策定しました。

本計画は、計画期間を平成三十年から令和九年までの十年間としており、これまで以下四つの政策推進の基本方向に沿って取組を進めてきました。

政策Ⅰ 林業・木材産業の一層の産業力強化

政策Ⅱ 森林の持つ多面的機能のさらなる発揮

政策Ⅲ 森林、林業・木材産業を支える地域や人材の育成

政策Ⅳ 東日本大震災からの復興と発展

政策は概ね順調に進んでいますが、今年度で計画開始から五

年目を迎えることから、これまでの取組状況を改めて検証するとともに、社会情勢の変化も踏まえながら、中間見直しを行うこととしました。

令和四年五月二十三日には、中間見直しについて、宮城県産業振興審議会に諮問し、六月二日には同水産林業部会において見直しの方向性等について御審議いただきました。

見直しの方向としては、森林経営管理法の施行や木材利用促進法の改定といった、新たな国の施策や、ウッドショックなどの情勢の変化を盛り込むとともに、SDGsやスマート林業などの視点も反映させることとしています。

今後は、引き続き宮城県産業振興審議会等で御審議いただきます。



県産業振興審議会の様子

令和五年二月議会に提案し、同年三月の改定を目標として作業を進めてまいります。(林業振興課)

### 宮城県における山地災害 と治山対策の取組

近年、気候変動に伴う豪雨形態が変化し、自然災害は頻発化・激甚化しており、ひとたび災害が発生すると被害規模が甚大となる傾向となっています。また、我が県では、大規模な地震が発生するなど、直面する課題に的確に対応していく必要があります。



山地においては、全国で毎年二千箇所を越える災害が発生する状況で、県内においても、平

成二十年岩手宮城内陸地震や平成二十三年東日本大震災により、山腹崩壊や津波被害など数百億円規模の被害が生じたほか、近年では、令和元年東日本台風において二百二十一箇所で林地被害が発生するなど記録的な大雨が甚大な被害をもたらしました。

治山対策は、森林の維持造成を通じて山地災害から国民の生命・財産を保全する重要な国土保全政策のひとつです。災害により荒廃または荒廃する恐れのある溪流や山腹において、治山施設の設置や森林整備などを行うことで森林の機能を回復させると同時に、保全対象となる人



溪流内の不安定土砂を固定する治山ダム

家や道路などの保護を行います。県では、山腹の崩壊や土石

流、地すべりなどの山地災害が発生する恐れの高い民有林内を「山地災害危険地区」に指定し（表1）、危険地区の巡回点検を実施して荒廃状況を把握するとともに、危険度ランクが高い箇所については、優先的に治山対策に着手するなど対策を進めています。

(単位：箇所)

	Aランク	Bランク	Cランク	計
山腹崩壊	258	323	250	831
崩壊土砂流出	428	829	107	1,364
地すべり	38	16	5	59
計	724	1,168	362	2,254

(表1) 山地災害危険地区指定状況  
(令和4年3月末日現在)

また、既存施設のストックマネジメントとして「宮城県治山施設長寿命化計画(個別施設設計画)」を策定しています。計画で



治山施設の点検状況

は、老朽化の進展状況から施設修繕・機能強化を計画することで、将来にわたって施設の機能を適切に発揮し続けるための長寿命化対策を推進しています。

毎年、七月から十月にかけては台風の発生・上陸数が多くなる時期となり、河川の濁りや水位の低下のほか、山地の亀裂や落石などの変化に気づいたら、まずは避難するといった行動が大変重要となります。

県としても、危険地区対策や施設の維持管理などを含めて、引き続き災害リスクの増加に備えた様々な取組を進めてまいります。

(森林整備課)

### 森林整備の省力化・低コスト化による再造林の推進!

県内の人工林は、本格的な利用期を迎えて素材生産量が増加している一方、再造林率は二〇〜三〇%程度にとどまっています。県では、生長量が鈍化する高齢級林分の主伐推進や、森林整備の省力化・低コスト化による再造林を推進するため、令和三年度からの補助事業体系を大きく見直しました。

- 一 一貫作業による再造林の補助率をアップ(所有者負担が概ねゼロに!)
  - 二 ヘクター当たりの植栽密度の上限を二五〇〇本に引き下げ(令和四年度以降は二〇〇〇本に引き下げ)
  - 三 下刈りの補助対象は原則三回、六年生まで
  - 四 公共事業の間伐補助対象は六〇年生、非公共事業は七〇年生に引き下げ
- 森林所有者や林業事業者の皆様には、一部負担を強いる見直しでしたが、令和三年度の再造林実績(補助分)は、対前年度比二十二%増の百五十八ヘクターとなったほか、再造林に占め

る一貫作業の割合も十二ポイント上昇しました。

令和三年度は、新たな知見に基づく提案型の再造林を審査会を経て採択し、支援する新たな事業も開始しました(チャレンジ!みやぎ五〇〇万本造林事業)。令和三年度は、計八事業者からの応募があり、一貫作業による低密度植栽をはじめ、大苗や一年生苗の活用、最新の育林機械やドローンの活用、獣害防止用薬剤の事前散布など、様々な提案が実践されています。



散布の事前による効率化(岩産林業株式会社 宮城十條営業所)

県では、令和四年度から、補助率嵩上げの対象を、低コスト再造林と一体的に実施する獣害防護柵の設置や下刈にまで拡大しました。提案型の低コスト再造林に対しても支援を継続するなど、今後とも、現場を熟知する関係者の皆様と協力しながら、再造林の推進を一層強化してまいりますので、引き続き御理解と御協力をお願いします。

(森林整備課)

### 非住宅木造建築フェア 2022に出展

六月十六日(木)から十七日(金)にかけて、東京ビッグサイト(東京都)で開催された非住宅木造建築フェア2022に、宮城県ブースとして、県木材協同組合と県CLT等普及推進協議会の二団体が合同で出展しました。

本イベントは、新たな木材需要の創出として期待されている非住宅建築の木造化・木質化の推進を目的に開催されている展示会で、全国から集まった業界団体や業界を牽引する企業など三十九団体が参加し、木造建築物に関わる建材・機械・サンプル等が並びました。



宮城県ブースでは、CLT等協議会の開発プロジェクトにより新建材として製品化を進めている超厚合板とDLTを中心に、県産材CLT、県内企業が製造している木質構造用ビス、東北大学大学院工学研究科(前田研究室)のCLTユニット建築の模型を展示しました。

展示会には二日間、約一万二千人の来場があり、非住宅建築の木造化・木質化に携わる企業との意見交換などにより、全国に先駆けて本県で進めている取組を発信することができ、今後の新建材開発や活用促進につながる良い機会となりました。



来場者でにぎわう会場と展示ブース

(林業振興課)

### 加美町有林の広葉樹材で 家具セットを製作

加美町では、令和二年から令和三年度の二年間で、更新伐施業により町有林の広葉樹を収穫し、持続可能な森林施業に取り組みました。

このたび、みやぎ森林・林業未来創造カレッジの協力を得て、令和二年度に収穫した加美町西部宮崎地区小塚山の広葉樹材を使用して、テーブル・椅子セットを製作しました。このセットは、新しく建設された中新田公民館のロビーに設置しています。



加美町は豊富な広葉樹資源を有しており、森林経営計画に基づいた計画的な森林施業を実施しています。更新伐施業では、上層木の本数の

七割を収穫し、三割を母樹として残存させ、種子の供給を確保しました。収穫した材は、チップ材、用材、こけし材等に活用することができ、用材率は令和二年度が十一・九%、令和三年度が十二%となりました。

中新田公民館に設置された家具セットは六種類の広葉樹材を使用して製作しました。座面は、コナラ、サクラ、クリ、ホオノキ、イタヤカエデ、ウリハダカエデの幅剥ぎ材を使用し、背面にもそれぞれの樹種を配置しました。テーブルとイスの構造材部分には、丈夫なクリを使用しています。イスは材の配置がそれぞれ異なり、加美町に生育する多様な樹種の性質と風合いを活かすことができました。その他に普及パネルを設置して、用材利用による二酸化炭素の固定や、更新した森林による二酸化炭素の吸収、生物多様性の活用等、広葉樹用材利用の意義について地域の方へお伝えしています。

今後、町産材を使用した公共施設の木造・木質化や、木工教室などの普及活動に取り組むこととしています。

(北部地方振興事務所)

### 栗原の木を使った木工品の 商品化と販売支援

米どころ栗原の田園地帯には秋になると、刈り取った稲を乾燥のため少しづつずらして棒掛した「ほんによ」が姿を現します。これをモチーフとした栗原市のマスコットキャラクター「ねじりほんによ」には様々なグッズが販売されており、ぬいぐるみもそのひとつですが、このぬいぐるみはお尻の所に稲杭が刺さっているため、うまく座れず転がってしまうのが難点でした。このため栗原の木を使い多数の木工品を製造販売してい



座り心地を工夫してもらった「ねじりほんによ」の椅子

る「株式会社こまくんえん」に対し、うまく座れる椅子の商品化を依頼したところ、稲杭を納める穴の位置・深さ・背もたれの角度等を工夫し、試作を重ね、このたび「ねじりほんによの椅子」が完成しました。単品での販売に加え、ぬいぐるみとのセットでも販売されています。



森林科学館内の販売コーナー

(栗原地域事務所)

# 特用林産功労者表彰の 受賞について

加美町 原木きのこ生産者  
鎌田 信幸氏

加美町で長年原木しいたけや原木きのこ(ぶなはりたけ、なめこ、ひらたけ等)を生産している鎌田信幸氏が、日本特用林産振興会の特用林産功労者表彰を受賞されました。令和四年五月二十七日に東京で行われた授賞式に出席され、日本特用林産振興会長の小淵優子氏から表彰状が授与されました。



表彰式の様子

原木しいたけ生産では毎年二千本のほだ木を購入し、人工



林内ほだ場の様子

自ら原木を伐採・搬出し、多品種を栽培して地元直売所の人気商品となっています。

原木しいたけ栽培では、出荷制限の解除にいち早く取り組み、他県産原木での生産を再開しました。放射性物質の低減化対策や出荷前検査等も真摯に実施し、安全・安心な生産物の出荷に関して地域の模範となっています。現在は「加美町山の幸研究会」の会長を務め、地元のリーダーとして生産振興に貢献されています。今年から後継者の方へ生産技術を伝えるなど、人材育成にも取り組んでいらっしゃいます。今後も、さらなるご活躍を期待しています。

(北部地方振興事務所)

# 丸森町全域でのたけのこ 出荷再開について

令和四年四月二十五日に、耕野地区の放射性物質濃度測定所において、生産者や行政機関など約三十人が集まり、「たけのこ初出荷・出発式」が開催され、悲願であった丸森町内全域でのたけのこの出荷が、今シーズンから再開されました。

丸森町産のたけのこは、東京電力福島第一原子力発電所事故の影響により、平成二十四年五月から町全域で出荷制限を指示されました。



出荷式のテープカットの様子

その後、地域の生産者や行政機関などが連携し、県内でも他地域に先駆けて非破壊検査機を導入し、安全・安心なたけのこの出荷体制が構築され、平成二十六年四月の「耕野地区」を初め、平成二十七年四月に「丸森地区」「小

斎地区」、平成三十年十一月に「筆甫地区」「大内地区」の出荷制限指示が解除され、出荷を再開してきました。

このような中、令和四年三月に、残りの「金山地区」「館矢間地区」「大張地区」においても、非破壊検査機による全量検査を条件として制限が解除され、丸森町全域での出荷制限解除が実現しました。

丸森町は、県内生産量の約三割を占める県内有数のたけのこの産地です。

引き続き、安全・安心なたけのこの出荷管理について、生産者と関係機関が連携を図りながら取り組みを進めてまいります。



放射性物質検査済のラベルを貼付したタケノコ

(大河原地方振興事務所)

### 非破壊式検査装置を活用した 出荷制限解除に向けた取組

令和四年二月に国から登米市産野生きのこの出荷制限が指示されたことを受けて、令和四年三月に、山菜やきのこの等の特用林産物の取扱に係る注意事項や、今後の出荷制限解除に向けたロードマップ、損害賠償請求の対象及び方法等について周知することを目的として、登米市内の産直施設の代表者を参集した説明会を開催しました。また、東北大学の協力により、道の駅津山もくもくランド内に設置された非破壊式検査装置の使用方法について、検査装置の開



非破壊式検査装置に関する説明会



検査装置にセットしたコシアブラ

発者である東北大学の石井名誉教授から説明を受けました。

この検査装置は、短時間で検査結果が得られるほか、検体を細断する必要がないことから、令和四年四月以降、産直施設で販売される山菜等の出荷前検査用としても活用されています。

出荷制限解除については、まずはコシアブラを対象として検体採取と検査の実施に努め、検査データの蓄積により装置の性能検証を進めることとしており、今シーズンは四検体を検査しました。

今後、さらに検査データの蓄積を進め、早期の出荷制限解除を目指します。

(東部地方振興事務所)

登米地域事務所

### まつたけの出荷制限 解除に向けた取組

気仙沼市産の野生きのこ(まつたけ含む)は令和二年十二月に国から出荷制限指示が指示され、まつたけの採取が盛んな気仙沼市では大きな影響が懸念されましたが、翌令和三年三月、国の出荷制限解除の条件に新たに一部解除の考え方が追加され、非破壊検査体制の構築により安全が確認された野生きのこの出荷が可能となりました。

これを受け、県・市・JAが連携し、まつたけの産地を守るため、非破壊検査機の導入及び、検体検査など出荷体制の構築を進めたことにより、令和三年九月に一部解除(まつたけのみ)を受けることができました。

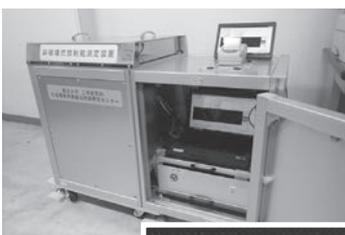
一部解除後は、非破壊検査機によるまつたけの全量検査が毎日実施され、ほぼ全数が出荷基準(五十ベクレル/キログラム)を下回り、安全が確認されたまつたけ約五百キログラムが市場に流通するなど、出荷制限の早期全面解除に向けて有用な結果が得られたところ です。

なお、今年度も、九月からの

全量検査の実施及び出荷に向け、各関係者と連携して準備を進めており、令和三年度の非破壊検査機一台から令和四年度は二台に検体検査体制が強化されるなど、検査サイクルの短縮と検査可能量の増加のほか、出荷に向けての鮮度の向上が期待されます。

今後も引き続き検査データの蓄積及び実証・検討を行うとともに、気仙沼市産まつたけはもとより、まつたけ以外の野生きのこを含めた出荷制限の全面解除の早期実現に向けた支援に取り組むこととしています。

今秋は、贅沢な秋の味覚を堪能しに、是非、気仙沼にお越し下さい。



非破壊検査機



出荷されたまつたけ

(気仙沼地方振興事務所)

# みやぎ海岸防災林・森林づくりイベント

## 五月二十日開催

東日本大震災で壊滅的な被害を受けた海岸防災林の復旧事業について、石巻管内では令和二年度までに植栽が完了し、今後は健全な森林に導く保育の段階を迎えています。

このため、防災林周辺にお住まいの皆さんをはじめとする多くの方に海岸防災林に親しんでいただき、ご関心のもとで育くまれるよう、昨年から東松島市大曲地区の方々とともに体験イベントを実施しています(共催大曲まちづくり協議会、東松島市)。

今回は保育体験として、一般参加者二十六人により、植栽区域の除草体験を行っていたいただきました。割当て二区画の植栽地は皆さんの積極的な作業であつという間にきれいなになりました。「今後のマツの成長が楽しみ！」という声も聞かれました。続いて、現地周辺の「みちのく潮風トレイル」の一部約三キロメートルをのんびりとウォーキングしながら、海の景色や鳥の鳴き

声を楽しんでもらい、防災林の周辺環境の復活を実感しました。

体を動かした後は、地区市民センターでの昼食となり、地元企業などからの食材提供を受けた「SDGスランチ」(豚汁)を味わい、身も心も充実したイベントとなりました。今後とも地元住民の皆さんと海岸防災林をつなぎ、地域づくりにつながる企画を予定しますので、ぜひご参加ください！



植栽区域の除草作業

(東部地方振興事務所)

# 市民参加の新たな森林づくり・春

令和四年五月に登米市津山町の登米市有林において、登米市と共催で「市民参加の新たな森林づくり・春」植樹祭を開催したところ、地元の横山小学校みどりの少年団の親子のほか、登米市有林カーボンオフセットプロジェクトを継続して購入している気仙沼市の(株)八葉水産の社員など、合計約百五十名の参加がありました。

当日は生憎の雨模様でしたが、津山町森林組合による植栽指導を参考に、参加者同士で協



植栽したコナラの苗木



小雨が降る中での植栽作業

力しながら、コナラの苗木八百本の植栽作業を無事に終えることができました。

登米市の中でも特に津山地域では、近年、ニホンジカによる苗木の食害が深刻さを増してきています。今回植樹祭を開催した箇所も、スギを主伐した後、比較的食害を受けにくく将来家具材等として活用可能なコナラによって再造林することとなりまりました。その他にも、最近スギを主伐した後カラマツを植える事例も増えており、十年後にはこの地域の山の姿は一変しているかもしれません。

(東部地方振興事務所)  
登米地域事務所

# 森林林業教育 in 仙台圏

仙台圏は、都市近郊にも保健休養機能を果たす森林公園が多くあり、「杜の都仙台」「学都仙台」に相応しくキャンパス内に森林を有する大学が多くあります。

令和四年五月十九日、公立大学法人宮城大学大和キャンパスを訪れ、事業構想学群の地域創生実習Ⅰにおいて、森林講座を行いました。学生七名の皆さんに、みやぎの森林・林業の概要や大和キャンパス内の学校林について地域森林計画図や森林簿を使い概況説明を行いました。



森林・林業の概要紹介

して活用していくことを目指しています。当日は、キャンパス内の立木の胸高直径や樹高を測定し、形状比を算出して間伐の必要性についても実習を行いました。大学では、令和四年度「みんなどで広げる「木育」活動推進事業（環境税事業）」を活用し、学生や教員による間伐体験や、森林林業教育について大学内外へ発信する活動を行う予定です。



キャンパス林での実習

また、五月二十七日に、東北工業大学で建築学を学ぶ学生の皆さんにも、森林・林業に関する講義を行いました。

仙台地方振興事務所では、これからも「杜の都仙台」「学都仙台」ならではの森林林業教育活動も続けて参ります。

## 生物多様性で遊ぼう、学ぼう！

「生物多様性」は、食料や水、気候の安定など様々な形で恩恵を生み出し、私たちの暮らしを支えています。しかし、一方で日常的に生き物や自然に触れ親しむ機会は少なくなっています。

そこで県では、昨年より、宮城の身近な自然に触れ親しみながら、そこにすむ生きものの命の尊さ、つながりを学ぶ機会の提供として、親子向けの学習イベントを開催しています。



磯の観察会

今年度の主なテーマは海など水辺の生物多様性です。様々な生きものが見られる三陸海岸などをフィールドに、計五回開催します。

第一回は、「志津川湾 磯の観察会」です。タイドプール（磯の水たまり）でアマフラシやヤドカリ、イ



魚市場の魚観察

ソギンチャクなどの生き物とふれあいます。その他、沢での生きもの観察や魚市場で見られる魚たちをおし

て、種の多様性や生物多様性と人との関わり、魚の体の構造から生態に迫ります！

さらに、普段は目にする機会の少ない海藻たちをカルタや押し葉作りを通して学ぶほか、鳥のくちばしからその生態を学ぶ遊びなど、内容は盛りだくさんです。



海藻の押し葉作り

イベントの詳細は次のURLをご確認ください。

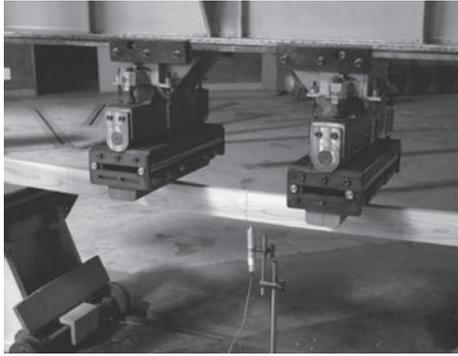
URL: <https://x.gd/miyagi>

(自然保護課)

# 令和四年度 林業試験研究の概要

林業技術総合センターでは、「林業・木材産業の一層の産業力強化をけん引する技術の開発」、「森林の持つ多面的機能のさらなる発揮に向けた技術の開発」、「東日本大震災からの復興と発展を支える技術の開発」の実現に向け、五つの重点課題と六つの経常課題に取り組んでいます。

今回はこのうち重点五課題について概要を紹介します。



ツーバイフォー部材の曲げ試験

一 ツーバイフォー建築に求められる県産スギ材の需要拡大に向け

て、ツーバイフォー・ツーバイシックス部材の普及・定着を進めるため、強度試験や乾燥に伴う収縮・変形量の調査、有利な木取りの提案などを行い、十分な強度性能を持つ効率的な部材製造方法等に取り組んでいます。

二 スギ及びクロマツの二世代品種開発に関する研究

従来よりも初期成長や材積、材質、通直性等の特性に優れ、雄花着花量も少ない宮城県由来の特定母樹(エリートツリー)品種の開発と、よりマツノザイセンチュウ抵抗性に優れたクロマツ品種の開発を目指しています。スギについては、東北大学との共同研究によるDNA分析を進め、四品種を登録したところであり、今後、採種園の造成を進めていきます。クロマツについては、一次接種木の増殖と検定による絞り込みの準備を進めています。

三 宮城県産きのこの新品種開発  
——ハタケシメジ野外栽培品種——

現在、菌株を維持管理しているみやぎLD2号(空調施設栽



二次選抜優良株

培品種)の後継となる新たな野外栽培適応品種の開発に取り組んでいます。

みやぎLD2号と優良野生菌株との交配・栽培試験を行い、現在、二次選抜①収量、②柄や傘等の形状、③栽培サイクルを行っている予定です。今後、三次(空調施設栽培)・四次(簡易施設栽培)選抜を行い「大ぶりで野性味が強く栽培しやすい品種」を出す予定です。

四 宮城県におけるカラマツの生育適地の検証等に関する調査

加工部材としての需要が高く、「新みやぎ森林・林業将来ビジョン」でも次世代造林樹種に位置付けられているカラマツについて、県内各地の生育状況を調査し、生育適地(気温、地形、標高、土壌など)の検証を進

めています。また、東北大学との共同研究によるDNA分析により、遺伝的特性の把握や材質、材質との関係性の検討に取り組んでいきます。

五 雄性不稔(無花粉)スギ個体の作出と品種開発に関する研究

本県の気候風土に適し、成長、形質の良好な無花粉スギの品種開発に取り組んでいます。現在は、林木育種センターで開発された雄性不稔スギ品種「爽春」と県内精英樹との人工交配苗木(F1)同士等の人工交配による苗木(F2)の作出を進めているほか、無花粉形質を持つ候補木の増殖に取り組んでいます。

最終的には採種園を造成した上で、挿し木苗木の生産・供給体制整備を進め、普及拡大を目指していく計画です。



無花粉スギ挿し木苗

(林業技術総合センター)

## 木材市況の動向

表1 各共販所別木材市況(令和4年6月)

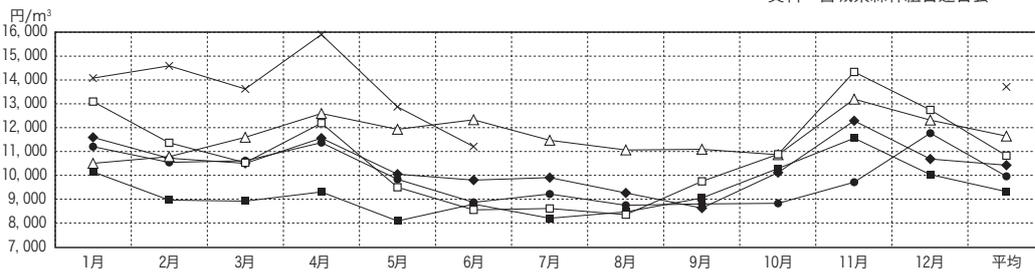
樹種	材長 m	径級 cm	価格(中値 単位:円/m <sup>3</sup> )				
			仙南	仙北	大衡	津山	石巻
スギ	3.00	14~16	—	—	—	—	—
		16~30	—	—	—	—	—
		20~30	16,200	—	15,000	15,000	—
	4.00	10~13直曲	10,080	11,880	13,000	11,000	—
		14~18	11,880	11,880	13,000	11,000	—
		20~28	14,400	14,400	15,000	14,400	—
		30上	14,400	14,400	15,000	14,400	—
	3.65 ~4.00	20~28	—	—	—	—	—
		30上	—	—	—	—	—
1.95	18上	—	—	—	—	—	

資料:宮城県森林組合連合会

### 概況

#### 素材動向

・素材平均価格は前年と比較し、高い水準で推移している。



素材: 県森連共販所市況(平均価格)

図1 素材価格の動き

## 特産市況の動向

表2 生しいたけ価格の市況

単位:円/kg

年次	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平成29年	1,034	945	861	862	890	775	863	851	884	980	971	1,034
平成30年	1,160	958	947	795	958	851	836	913	987	968	929	1,009
平成31年	1,064	993	895	932	887	888	901	989	949	908	953	998
令和2年	999	965	977	1,006	973	958	926	944	1,057	1,044	989	1,001
令和3年	1,046	954	916	879	892	862	843	921	939	921	948	1,035
令和4年	1,010	991	982	948	983	1,012						

資料: 仙台中央卸売市場

### 概況

・平成24年に原木しいたけ(露地)が出荷制限指示を受けたこと等に伴い、価格は大きく下落したが、平成26年次以降は900円代と、震災前の平均価格を上回っている。  
・令和3年の生しいたけ年平均の単価(円/kg)は前年を下回って推移している状況である。

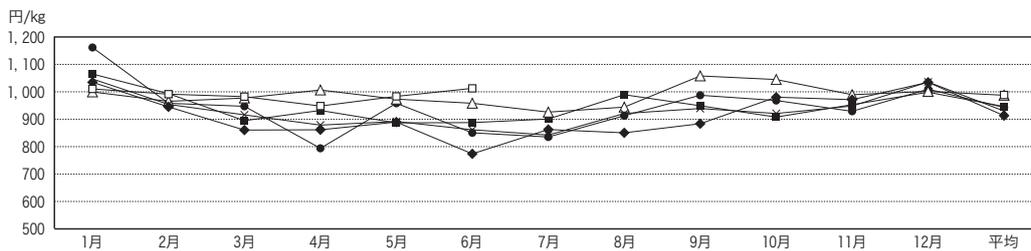


図2 生しいたけ価格の動向

表3 宮城県の新設住宅着工戸数(令和4年5月)

項目	総数	木造戸数	非木造戸数	木造率(%)
令和4年5月(戸)	1,504	922	582	61.3
令和3年5月(戸)	1,170	888	282	75.9
前年同月比(%)	128.5	103.8	206.4	—
令和3年6月~令和4年5月(戸)	17,136	11,830	5,306	69.0
令和2年6月~令和3年5月(戸)	14,612	10,787	3,825	73.8
前年同期比(%)	117.3	109.7	138.7	—

資料: 住宅着工統計

### 概況

#### 新設住宅着工戸数

・5月の新設住宅着工数(木造)は対前年比で増加している。  
・1年間の新設住宅累計は増加したものの、木造率は減少している。

国産材(生産販売)、木材チップ生産  
製材業、伐出造林請負



## 宮城十條林産株式会社

代表取締役 亀山 武弘

本社 〒980-0871  
仙台市青葉区八幡3丁目2番7号  
☎仙台(022)261-2151(代) FAX(022)261-2150

営業所 気仙沼・栗駒・飯野川・大和・白石・郡山・岩出山  
工場 気仙沼・栗駒・白石・岩出山  
関連会社 宮十運輸株式会社・宮十造園土木株式会社  
株式会社宮城環境保全研究所



## 坂元植林合資会社 株式会社サカモト 坂元植林の家

地域との共生  
「めぐるめぐみ」をテーマに  
私たちは自然を愛し、  
大切に育てていきます。



〒989-1601 宮城県柴田郡柴田町船岡中央1-9-12  
Tel:0224-58-1100 Fax:0224-58-2252  
www.web-sakamoto.co.jp

## 宮城県木材チップ協同組合

代表理事 亀山 武弘  
専務理事 小澤 幸三  
理事 亀山 征弘  
理事 梶原 領太  
監事 阿部 貢也  
監事 石田 竜也

〒980-0871 仙台市青葉区八幡三丁目2番7号  
電話 022(261)2151 FAX 022(261)2150

## 宮城県木材チップ工業会

会長 米澤 光秀  
副会長 奥津 文男  
副会長 永井 政雄  
副会長 菅原 正義  
ほか理事一同

〒980-0871 仙台市青葉区八幡三丁目2番7号  
電話 022(261)2151

緑をはぐくみ水をつくる  
奥地水源地域の森林整備

## 水源林造成事業

### 宮城県水源林造林協議会

〒980-0011  
仙台市青葉区上杉2丁目4-46  
宮城県森林組合会館内  
TEL (022) 266-7121

## 一般財団法人 佐々君治山報恩会

代表理事 遊佐 勘左衛門

〒989-6165 大崎市古川十日町4番14号  
TEL (0229) 22-1281  
FAX (0229) 22-1281  
E-mail: sasakimi@proof.ocn.ne.jp

- 製材機械
- プレカット機械 「木」に関する機械の販売及びメンテナンス
- 農林業機械



## 筒井鋼機株式会社

☎ (022)224-1261 〒980-0013  
📄 (022)265-9231 仙台市青葉区花京院二丁目2番22号



弊社WEB

スゴいぞ! みやぎの木のチカラ!



# 木×SDGs

Wise use of woods from みやぎ!

県土の約6割を占める森林は、水源のかん養や山地災害の防止など多様な機能を担っており、その発揮が様々なSDGsの目標達成に貢献しています。また、製造時のCO2排出量が少なく、内部に炭素を蓄える「木材」を上手に利用すること（木材のワイズユース）は温暖化防止など様々なSDGsに貢献し、そこから生み出される恵みを森林の再生に還元させることで持続可能な循環を作り出すことができます。

みやぎには良質な木材や優れた加工技術があり、JAS製材品など品質の高い製品も豊富です。どうぞ住まいづくりや街づくり等において「みやぎの木のチカラ」を改めて実感してください。私たちが誠意を込めてお手伝いします。

### 宮城県木材協同組合の取組例

#### JAS製材品の利用拡大



公営住宅建築におけるJAS材利用

#### 外構の木質化



門扉（塀）の木質化

宮城県木材協同組合・みやぎ材利用センター 理事長 千葉 基 tel:022(233)2883  
<https://miyagi-wood.jp>

森林は大切な資源です  
森林整備を通して  
美しい森林を未来に伝えます

 一般社団法人 宮城県林業公社  
(森林整備法人)

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17  
TEL (022)275-9171 FAX (022)275-9172  
<http://www.miyagi-rinkou.sakura.ne.jp>

# 緑の募金 にご協力ください!

秋の強調月間 9月1日～10月31日

目標額 **45,000,000円**

### 令和4年緑の募金運動スローガン

「緑の募金で進めよう SDGs」～森林を守る 森林を活かす～



## 公益社団法人 宮城県緑化推進委員会

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17 宮城県仙台合同庁舎10階  
TEL.022-301-7501 FAX.022-301-7502

「公益信託 農林中金森林再生基金」(農中森力基金)<sup>もりちから</sup>等を通じ、森林の公益性発揮を目指した活動を積極的に支援していきます。

## 農林中央金庫 仙台支店

〒980-0011 仙台市青葉区上杉一丁目2番16号 (JAビル宮城内) ☎022(711)7531(代)

私たちは森林づくりのプロフェッショナルです。ご相談はお近くの森林組合に！

## JForest 宮城県森林組合連合会

仙台市青葉区上杉2丁目4-46  
TEL022-225-5991 FAX022-225-5994

### ■優良みやぎ材の原木は

仙南地区木材センター 0224-65-2166      仙北地区木材センター 0229-72-1877  
大衡総合センター 022-345-2205      津山木材センター 0225-68-3038

### ■樹木の枝や根の有効利用は      ウッドリサイクルセンター 022-345-6041

花粉症対策スギ挿木コンテナ苗木, 海岸防災林用抵抗性クロマツ苗木をはじめ、  
林業用及び森林復旧用各種苗木のご用命・ご相談承ります。

## 宮城県農林種苗農業協同組合

〒980-0011 仙台市青葉区上杉二丁目4番46号  
TEL (022) 222-3661 FAX (022) 222-3688

## 林業の<sup>今</sup>を伝える月刊誌 **令和4年度の購読申込受付開始!!**



**GR 現代林業**  
A5判 80頁  
年間購読料 5,400円(送料込み)



**林業新知識**  
B5判 24頁  
年間購読料 3,000円(送料込み)



**山林**  
A5判 66頁  
年間購読料 3,500円(送料込み)

図書の申込、問い合わせは

### 宮城県林業振興協会

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17  
宮城県仙台合同庁舎10階

**TEL 022-301-7501**  
**FAX 022-301-7502**

発行 宮城県林業振興協会 仙台市青葉区堤通雨宮町四番十七号  
編集協力 宮城県水産林政部林業振興課

☎022-222-3011